

さまざまなた表現技法 第二回

比喩ゆ（直喩・隱喩いんゆ・擬人法ぎ）

講師・・羽場雅希

◆今日のゴール

- ・表現技法を理解できる。
- ・自分の日本語をもっと工夫できそう！と思える。

◆さまざまな表現法

比喩…ものごとをあるものにたとえ、印象を強める表現。

直喩…「くのようにだ」「くみたい」「くのぐとっ」などの語を用いてたとえる。

例…たかのような鋭い目。とんざん
チーターのように足が速い。

隠喩（暗喩）…「くのようにだ」などの語を用いないでたとえる。

例…彼女のひとみは夜空の星だ。かのじょ
君は私の太陽だ。

擬人法…人でないものを人であるかのようにたとえる表現。

※比喩の一種だが、比喩と別にとりあげることもある。

例…お好み焼きの上でカツオ節がおどっている。

母なる海が私たちをやさしく包む。

深々と人間笑ふ声(ウ)すなり

谷一面の白百合の花

北原白秋 きたはらはくしゅう



▼白百合

【第一問】 次の詩を読んであとの問いに答えなさい。

木

くさのしんぺい
草野心平

- ① 葉っぱをおとした
- ② 冬の木はいい
- ③ はだかの木々のすがたはいい
- ④ ごつごつした古い木などはとくにいい
- ⑤ 強くておちついていてじつにいい
- ⑥ 霜柱しもにかこまれて
- ⑦ 寒さのなかにたっている
- ⑧ はだかの木々の美しさ
- ⑨ 枝々や幹のなかを
- ⑩ 力が流れているような気がする
- ⑪ 夢がいつぱいつまってるような気がする
- ⑫ 白いほのおが燃えてるような気がする

問 ⑩～⑫に使われている表現技法を、次から二つ
選びなさい。

ア、直喩 イ、隠喩 ウ、擬人法 エ、反復

ア・エ

【第二問】 次のA、Bの短歌に関する以下の問いに答えなさい。

A. 深々と人間笑ふ声(ウ)すなり谷一面の
白百合の花
北原白秋

B. 金色こんじきのちひさき鳥のかたちして
銀杏いちようちるなり夕日の岡に 与謝野晶子

(1) Aの歌について述べた次の文章の空欄らんにあてはまる言葉を書きなさい。

「**白百合の花**」が風に揺ゆれる音」を、「深々と」**人間笑ふ声**」にたとえている。これは人間社会のせせこましさを笑っているのである。

人間でないものを人間であるように表現している **擬人法** が使われている。

(2) Bの歌について述べた次の文章の空欄にあてはまる言葉を本文から書き抜きなさい。

この歌では隠喩技法が使われている。

〔 銀杏 〕の葉を

〔 金色のちひさき鳥 〕にたとえている。



▲イチョウ並木



▲イチョウの葉

■イチョウの葉：作者名：マリヤ・ガジッチ 作品名：Ginkgo biloba 11 (10)

URL：[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ginkgo_biloba_11_\(10\).JPG](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ginkgo_biloba_11_(10).JPG) CC-BY-SA

■イチョウ並木：作者名：柴田拓 作品名：北海道大学銀杏 - panoramio

URL：https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ginkgo_at_hokkaido_university_-_panoramio.jpg CC-BY-SA